



今年の外語祭のキャッチフレーズは「搭乗時間0時間、国内海外旅行」

## 実行委員会からの「第 87 回外語祭」報告

実行委員会は、史上最多の 60 人のメンバーで 4 月から外語祭に向けて準備してきました。実行委員会として、今年の外語祭は全てにおいてレベルアップを試みることができたと思います。

第 87 回外語祭実行委員会・委員長 塚越惇一(E3 年)

### 外語祭管理の面から

企画管理の面においては、「安全な外語祭」を実現するため、例年以上に努力しました。万が一事故が起きてしまっただけでは楽しい外語祭も台無しになると考えたからです。

まず、昨年度より開始した「アルコールパスポート制度」の普及に尽力しました。この制度は、お酒の飲み過ぎを抑制し、また、未成年者の飲酒を防ぐ制度です。世界中のお酒を楽しめるのが外語祭の魅力の一つですが、この制度が普及したおかげでしょうか、今年はアルコールに関わる事故・トラブル等はほとんどありませんでした。

また、衛生面の管理にも細心の注意を払いました。毎年 50 以上もの企画が屋外で飲食物を扱うため、食中毒等には以前から気を配ってきましたが、今年は新型インフルエンザの流行もあって、さらに多くのことを考えなくてはならない厳しい年でした。2 ヶ月以上前から各種会議、掲示等で繰り返し注意を呼びかけ、また、期間中は学校側と連携し、消毒液、看板等を各所に設置するなどして備えた結果、他の大学の学園祭が次々と中止・短縮される中、無事に 5 日間外語祭を遂行することができました。

### 外語祭創造の面から

「実行委員会」というと外語祭を「管理する」人たち、というイメージが一般的には強いようですが、今年は、「企画局」や「装飾局」を実行委員会内に新設するなど、実行委員会自らが外語祭を「創る」という意識を持って活動しました。

(本部企画について)

実行委員会が主催する「本部企画」は、毎年同じような企画を惰性で行っている感がありましたが、今年は 1 から考え直し、より多くの方に楽しんでいただけるものを目指しました。その結果、

例年 2・3 個程度だった「本部企画」は 10 以上の数に増えました。より多くの方に楽しんでいただけるよう、多様な企画を用意しようとした結果です。その中から、私はこの場をお借りして「着てみよう！民族衣装」と「地域共同企画」を紹介させて頂きたいと思います。この 2 つの企画に、今後の外語祭の大いなる発展の可能性を感じたからです。

世界の「衣」文化にスポットを当てた「着てみよう！民族衣装」では、来場者の方に実際に各国の衣装を試着して頂けるようにし、ご好評を頂きました。この企画は今後の外語祭に大きな指針を与えてくれたと思います。というのも、外語祭は今まで、専攻語料理店による「食」文化の紹介を最大の目玉としている感がありましたが、人間の文化は衣食住の少なくとも 3 つがあり、「食」だけでなく、その他の「衣」や「住」なども十分外語祭という場において紹介する価値を持つということを我々に気づかせてくれたからです。

次に、地域共同企画についてですが、これは実行委員会が近隣住民の文化団体さんなどをお招きし、展示・講演などを行って頂く形で外語祭に参加してもらうというものです。具体的には、「府中長町連盟・外語祭公演」、「府中美術工芸会・作品展示」、「警察大学校・講演会」、「鼓太郎・外語祭公演」を行って頂きました。そもそもなぜ「地域共同企画」を行ったかということ、地域と一体になった企画を進めることで、外語祭をもっと地域の皆さんに親しんで頂ける祭りにしたいと思ったからです。本学が 2000 年に府中キャンパスに移転してきてからまもなく 10 年がたちますが、地域の方々とのつながりはまだまだ浅く、外語祭についても地域最大のお祭りとしては認知されていないようです。今後も様々な形で外語祭と地域の方々とのつながりを持つことで、外語祭が府中一の祭りと言われるような、地域の皆様に愛されるお祭りになっていって欲しいと願っております。

その他、野外ステージで行った「外大の星！決定戦」や「フィナーレ」では多くの来場者、企画団体の方に足を止めて頂き、一緒に盛り上がる事ができました。

(会場設営について)

主催する企画だけでなく、装飾や会場設営においても、いかに来場者の方に満足していただけるか、を考えました。毎年企画の管理で手一杯でしたが、今年は来場者の方の目を意識して活動しました。

まず、初めて外語大に来られた方にいかに分かりやすい外語祭を提供できるか、という点を突き詰めていきました。広いキャンパスに様々な企画が散らばり、多くの来場者の方でごったがえしているため、分かりづらく、始めて来られる方には十分に楽しんでいただけないと思ったからです。そのために、200枚以上の看板・ポスターを新たに作成、各所に設置しました。また、昨年度まで講義棟1階の1か所のみに設けていたインフォメーションセンターを学内4か所に増設し、来場されたお客様の疑問・ご要望にすぐに実行委員会がお応えできるシステムを整えました。また、この4か所のインフォメーションセンターにより迷子・落とし物等のトラブル管理も連携して行いました。これらの新たな試みと例年作成しているパンフレットやホームページの更なる充実により、今年はより親しみやすい、分かりやすい外語祭を実現できたと思います。

会場設営については、飲食用テントスペースの設置、講義棟内の企画団体による垂れ幕・ビラの充実も今年の新たな試みでした。この2つの新たな動きに共通するのは、今までデッドスペースとなっていた空間を利用していることです。

飲食用テントは、以前から「料理店等は充実しているが、座って落ち着いて飲食できるスペースが不足している」とのご指摘を受けて円形広場隅に新設しました。期間中は雨が降る日もあり、テント設営は成功だったと自負しております。今年は2棟のみでしたが、来年度以降はテントの更なる増設、もしくは別の方法により、来場者の方に更に快適な形で世界の料理に舌鼓を打って頂こうと考えております。

企画団体による講義棟内での垂れ幕・ビラは数年前から受付を始めましたが、今年は団体さんにも浸透したのか、講義棟内は多くの団体のビラや

垂れ幕で彩られました。私は2年前に本学に入学し、外語祭を初体験しましたが、当時は円形広場こそ活気あふれていたものの、講義棟に一步足を踏み入



るとそこは普段の授業時とほとんど同じ空気で、祭を感じさせるものはあまりなく、少々寂しい雰囲気もありました。今年は企画団体のビラ・垂れ幕に加え、語劇の練習風景の写真展を開くなどして、講義棟内も雰囲気がとてもお祭りらしく華やかなものになり、2年前とは全く違うものになったと思います。

このように、今年の外語祭では従来デッドスペースとなっていた空間を利用してより有意義なものにすることができました。しかし、この広いキャンパスにはまだまだ外語祭に利用できるスペースがたくさんあるので、物理的により大きく、より濃い外語祭を目指して、来年度以降活動していく所存です。

### 来年度以降に向けて

このように、実行委員会は第87回外語祭に様々な新しい要素を組み込み、概ね良い結果を取ることができました。しかし、まだまだ良くしていける部分が多々あり、すでに実行委員会は次回の外語祭に向けてその改善に取り掛かっています。また、目新しいことにばかり気を取られて、多くの先輩方から1世紀以上にわたり代々受け継いできた伝統を蔑ろにすることがないように、常に87という数字の重さも意識していま



「フィナーレ」での筆者挨拶

す。今後も外語祭がより良いものになるよう、実行委員会一同精進していく所存でございますので、次回以降もお時間ございましたら、ぜひ外語祭にお越し下さい。